

orpanoz

2006 MAY ウーラノス

Vol 22

特集 NEW WAVE T.G.U.

- フリーター・ニートという「物語」— 1
- 歴史を伝え、今に導く— 3
- 学長室より— 4
- 協奏、そして共創へ— 5
- 学部より— 7
- 大学院より— 8
- 研究室・センターより— 9
- 就職部より— 10

フリーター・ニートという「物語」



フリーター・ニート という「物語」

つくられた若者たちの虚像

教養学部教授 片瀬 一男

第一章

今に始まったことじゃない

元祖ニートは、 明治の「高等遊民」

近代日本に初めて「ニート」的存在が登場したのは、夏目漱石の『それから』のなかでした。主人公の代助が、帝国大学を出ても就職しない「高等遊民」すなわち元祖ニートだったので。この小説は明治42年から『朝日新聞』に連載されましたが、この時期は日露戦争軍需バブル崩壊後の不況期にあたり、東京帝国大学の卒業後進路の最頻値は「職業未定もしくは不詳」（法科大学では38.3%、文科大学では39.5%）でした^{*1}。

そして戦後、再び「ニート」的存在が現れたのは、二次にわたるオイルショック後の不況期1970年代末。正業に就かない若者が「モトリアム人間」と言われ、その後も「フリーター・ニート」と名前を変えて1980年代末のバブル崩壊後に現れることになります。

こうしてみますと、不況期には若年無業者が増えるのは歴史的にみても当然ですし、そのつど「高等遊民」、「モトリアム人間」、「フリーター・ニート」というラベルが若者に貼り付けられ、恣意的な「物語」が紡がれてきたということが分かります。

元祖ニートから現代のニート ～名前の変遷～

- 1900年代(日露戦争軍需バブル崩壊後)
高等遊民
- 1970年代末(二次にわたるオイルショック後)
モトリアム人間
- 1990年代(1980年代末バブル崩壊後)
フリーター・ニート

第二章

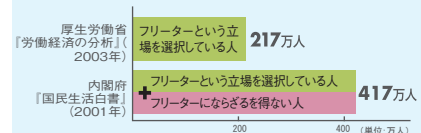
バブル期と比べないで

若年無業者は 景気変動の落とし子

フリーターは「フリー・アルバイター」の略で、1987年にリクルート社のアルバイト情報誌「フロム・エー」が最初に使ったものです。当時はバブル経済のもと「正社員になることを拒否して、自由に好きなアルバイトをして生活をする」という若者の新しいライフスタイルを意味していました（現に大黒麻季は1992年の「恋はメリーゴーラウンド」で「夢見て走れフリー・アルバイター」と唄っています）。

厚生労働省の『労働経済の分析』（2003年）、内閣府の『国民生活白書』（2001年）の調査によれば、フリーターは80年代に比べて増加しているという結果が公表されました（下図）。しかし、新谷康浩^{*2}は、フリーターの主たる供給源とされる「高卒無業者数」を文部科学省の『学校基本調査』データから推計し直し、現在の「高卒無業者」数は1970年代とほぼ同じ水準にあること、逆にバブル期の1980年代は好景気のため「高卒無業者」数が例外的に低かった時期であることを明らかにしました。つまり、例外的な時期に比べて、現在「高卒無業者」が増えているという「物語」が行政によって構築されているのです。

フリーター(ニート)の人口



ニート(NEET)とは
Not in Employment, Education or Trainingの略。
「職に就いていず、学校機関に所属もしていず、
就労に向けた具体的な動きをしていない」若者を指します。
現在、マスコミによって伝えられているニートたちの実態は
「社会性ゼロ」といったマイナス思考のものばかり。
果たしてそれが彼らの本当の姿なのでしょうか。
過去の歴史を遡り、データを照らし合わせながら検証すると、
社会経済問題としての真実が見えてきます。



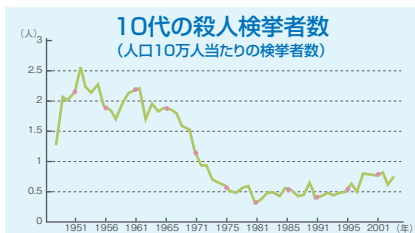
第三章

心の問題なんかじゃない

少年犯罪とフリーター 「前代未聞の急増」は嘘

近年、この「物語」は心理主義的傾向を帯び、社会経済的な問題を若者の心理(依存性や自己愛の強さ)に帰責する言説^{*3}が増えました。しかし、ニートについて言えば、実態は「進学・留学準備」「資格取得準備」が多く、つまり増えたのは「求職型無業者=失業者」であって、「働く意欲のない若者」ではありません^{*4}。若年無業者は経済問題であって、若者の「心」の問題ではないのです。

また、この問題とともに、暗い影を伴って伝えられるのが少年犯罪です。マスコミは凶悪な少年犯罪が増加したと報道していますが、この報道が事実に反した「捏造」(学問的には「構築」と言います)であることは、一部にはよく知られた事実です。下図は各年度の『犯罪統計書』から10代の殺人検挙者数の人口比をみたものですが、この50年間に検挙者数は大幅に減少してきています。確かに1996年以降、10代の検挙者数は微増傾向にあります。これをもってマスコミは「前代未聞の急増」と書き立てているのです^{*5}。これもまたつくられた「物語」と言えるでしょう。



終結章

彼らの時代がやってくる

2007年問題は、若者に 夜明けをもたらすのか

しかし、平成不況がつくりだした「フリーター・ニート物語」は、日本経済の「2007年問題」により、間もなく終焉を迎える運命にあると思われます。およそ300万人といわれる1947年前後に生まれた「団塊の世代」の大量定年退職と少子化による労働力不足により再び若年労働市場は好転し、無業率も低下するでしょう。そして今「流行」のニート・フリーターという存在も、不況期にはいつもいた「フツー」の若者の「物語」として冷静に語られる時代が来ることになるでしょう。ですから、自分たちがこうした「物語」の中に取り込まれていると伝えることこそ、今の若者にとって「癒し効果」があるのではないのでしょうか。経済的な問題を若者の心理に帰責する心理学主義は若者を不安にしますが、冷静な社会科学的認識は若者を「癒す」ことになるのです。

とはいえ、「2007年問題」が若年労働市場の問題をすべて解決するわけではないことには注意が必要でしょう。バブル崩壊後の「失われた10年」の間に労働市場は量的に縮小しただけでなく、質的な構造変動を遂げました。とくにパート・アルバイト・派遣労働などの非正規雇用者は、バブル末期(1991年)の897万人から1650万人(2005年)に増加し、全労働者の32%を占めるに至っています。この間、職業スキルを蓄積できないまま職場を転々としたフリーターも30代半ばにさしかかり、今後も非正規雇用に滞留するなかで新たな「下流社会」が形成されることも危惧されています

注
 ※1 竹内洋「立身出世主義」世界思想社、2005年
 ※2 新谷康浩「フリーター対策は妥当か」『横浜国立大学教育人間科学部紀要I』第6巻
 ※3 香山リカ「就職が怖い」講談社、2004年など
 ※4 本田由紀「ニート論」という奇妙な幻影
 本田由紀・内藤朝雄・後藤和智
 「「ニート」って言うな」光文社新書2006年、所収
 ※5 内藤朝雄「社会の憎悪のメカニズム」同前所収
 ※6 三浦展・本田由紀「若者を蝕む格差社会」
 『中央公論』2006年4月号



杉山元治郎の故郷(1)

経済学部教授 岩本 由輝

文部省検定教科書に出てくる本学出身者といえば誰でしょうか。高校『日本史』Bの大正デモクラシーの項に登場する杉山元治郎さんがその人で、1909年3月、当時の専門科神学部別科を卒業したキリスト者です。本学理事長を2度つとめた方でもあります。

杉山さんは、1885年11月18日に大阪府日根郡下瓦屋村(現泉佐野市下瓦屋)で生まれました。半農半漁の村だったと言われています。杉山さんの故郷での資料を集めようと、2003年12月17日、経済学部の仁昌寺正一先生と一緒に泉佐野市に行き、市立図書館の司書の方に杉山さんについて聞きますと、吉川弘文館の『国史大辞典』の「杉山元治郎」の項を示してくれました。

これではどうしようもないので、下瓦屋に行くことにしました。南海電鉄南海線(なんば-和歌山市間)の泉佐野の1つ手前の井原里(いはらのさと)が最寄り駅です。西口に出ると、そこが下瓦屋ですが、直進して国道26号線を越えてしばらく行き、高架の湾岸道路の下をくぐると大阪湾です。漁港がありますが、一帯は住宅地といった感じで、半農半漁の村のイメージはありません。海岸沿いにさまざまな業種の中小工場が並んでいます。沖合には杉山さんの生まれた頃どころか、生前にはなかった人工島の関西国際空港があり、その一部は泉佐野市で、飛行機が頻繁に離着陸する光景がみられます。

国道26号線の角に大きなショッピングセンターがあり、その先に共同墓地があったので、仁昌寺先生と手分けし

て、向う側とこちら側から「杉山」という墓石を探すことにしたところ、間もなく仁昌寺先生が「杉山家の墓」を見つけました。1956年7月14日「杉山元治郎建之」とあります。墓前に比較的新しい花が手向けられています。お詣りする人があるのだから、手がかりはあるなと思い、その一画の古い墓石を見ると、「釋○○」とあり、浄土真宗の戒名であることがわかりました。そういえば、杉山さんは、子供の頃、おじいさんから朝夕仏壇の前に正座して親鸞の「正信偈」(しょうしんげ)の一節を唱えさせられたと自伝のなかに書いております。

通りがかりの人に「近くに浄土真宗のお寺がありますか」と聞いてみたら、下瓦屋に浄土真宗大谷派西方寺があるとのことでした。西方寺を訪ねますと、「杉山さんはうちの檀家でした。杉山さんの家はもうここにはありません。でも杉山さんが5歳のときに亡くなったお母さんの実家があります。すぐその新谷さんのお宅ですが、杉山さんのお墓の墓守りをしておられます。」ということでした。お寺では、実はとって、「杉山さんはもともとうちの檀家ではなく、昔ここにあった浄土真宗仏光寺派信証寺の檀家でした。信証寺は杉山さんのところで支えていたようなお寺でした。杉山さんのおじいさんは、藩政時代、佐野の豪商食野(めしの)家の千石船の船頭をやっていて羽振りがよかったです。明治維新で世の中が変わったあと、いろんな事業に手を出して失敗したことから、信証寺を支えられなくなり、廃寺となった信証寺の檀家をうちで引き取りました。そのあと、杉山さんは牧師さんにな



りました。でも下瓦屋が生んだ立派な人として今でも記憶していますよ。」ということをお話くださったうえで、新谷さんに私どもを電話で紹介してくださいました。

(次号へ続く)

From the President.

学長室より



ほし みや のぞむ
学長 星宮 望

若人の心を育てて地域貢献

東北学院大学が、若者の心を育てることに日本で最も力を入れている大学であるということを強調したいと思います。本学では大学をあげて学生諸君の心を育てることを優先的に考えています。創立以来、120年間にわたって、毎朝の礼拝を守っていることはその一例です。聖書の言葉を味わったり、司会をされる先生の話に耳を傾けたり、自分のことを見つめたりする時をもつことが毎日できることは大変意味深いことであると思います。昨今の日本では、知力・学力を備えていても、心の発達が不十分と思われる人によって起こされた事件が続発しています。建築物の設計における耐震構造計算の偽装事件、粉飾決算や証券取引法違反事件…などなど、21世紀に入ってから、次々と学歴の高い人間の「心の問題」と思われる事件が続いています。このように、心の荒廃が問題になっているときこそ、本学における上記のような取り組みが重要になっていると思います。

ご存知の通り、本学は基督教の教えを建学の精神としている高等教育機関であります。大学における学習や活動にとって最も重要な時間帯ともいえる午前10時～10時30分に、三つのキャンパスで同時に礼拝を持つことにしていることは、この「若者の心を育てること」を大切にしていることのアラわれであります。これらの時に、聖書にしるされた多くの心にしみる言葉、「聖句」を学ぶことでしょう。今回は、その中でも、新約聖書のヨハネによる福音書13章に記述されている、主イエス・キリストが弟子の足を洗ったという逸話を紹介したいと思います。古代オリエント地方においては、奴隷あるいは僕が主人の足を洗うのが習慣であったわけですが、そのようなときに、主人であり先生であるイエス・キリストが弟子の足を洗ったというのです。このことは、我々基督教の教えを建学の精神としている大学における教育理念の基本であると思います。私たち教員はこのイエス様の「洗足の逸話

(主人・教師が弟子の足を洗った話)」を模範とした教育を行っていきたいと念願しております。

このような建学の精神に裏付けられた教育を長年にわたって行ってきたことが、「東北学院大学が宮城県を中心とした東北地方における地域貢献No.1の大学である」と評価されていることのアラわれていると思います。このことは、経済界でも、産業界でも、金融界でも、サービス業界でも、国・県・市などの政官界でも、本学の卒業生が活躍してくれており、社会から大きな信頼を受けていることにもアラわれています。言い換えれば、地域社会において、「東北学院大学の卒業生は信頼できる」という評価が定着していることであります。こうした本学における長年の取り組みが、まさに「世の光、地の塩」となって輝いている卒業生に結実しているといえるのだと強く思っています。

協奏 共創へ

そして

東北学院創立120周年記念事業のご案内

高等教育機関としての東北学院は、本学院の知的財産を産学連携に活かし、また市民を対象とした公開講座という形で地域社会に貢献してきました。本年5月に、東北学院は創立120周年を迎えますが、地域社会との連携を一層深め、同窓生と母校との絆をさらに強めるために記念行事・事業を開催いたします。



記念演奏会

日時 2006年12月23日(土) 14:30開演
場所 泉キャンパス礼拝堂(仙台市泉区天神沢2-1-1)
内容 バッハ・コレギウム・ジャパン
ヘンデル:オラトリオ「メサイア」
(バロックの宗教作品を上演)
対象 全席自由 3,500円(当日 4,000円)
入場券前売所
東北学院大学生協(発売中)
藤崎、三越、さくら野、ヤマハ、
カワイ(9月より発売開始)
お問合せ 仙台コンサートソサエティ
TEL.022-264-3074
東北学院大学宗教音楽研究所
TEL.022-375-1185

図書館「新資料紹介」

～アジア・コレクション～

「東西文化の接触と相互影響、およびウエスタン・インパクト」
政策形成の基礎文献に関するコレクション(略称:アジア・コレクション)」の紹介(その3)



コスロフ「モンゴルとカム」1905,6年、ペテルブルグ初版本。



スウィンヘディン「南チベット」1917年、ストックホルム初版本。

新 文学部長紹介

任期:平成21年3月31日まで



遠藤 健一

略歴
昭和47年 東北学院大学文学部英文学科卒
昭和52年 東北学院大学大学院文学研究科
博士課程修了
昭和52年 東北学院大学文学部助手
昭和53年 同講師
昭和54年 同助教授
昭和62年 同教授 文学批評等担当

実学からいかにも程遠いのが文学部での学びのように思われるでしょうが、実は逆なのです。実学と称される技術偏重の教育はすぐに役に立たなくなってしまう。すぐに役立つものは役に立たなくなるのも早いのです。人文諸学の枢軸科目である〈哲・史・文〉を中心に据えた本学文学部での学びのテーマは、〈ひととしていかによく生きるか〉というものです。これは古くて新しいまさに実践的なテーマです。高度な研究力と確かな教育力を誇る本学文学部は、〈ひととしてよく生きる〉ための学びの場となるよう、3学科挙げて、さらに努めて参ります。

記念講演

日時 2006年4月24日(月) 15:30
場所 仙台国際センター
演題 「社会に貢献できる人間になろう」
講師 弁護士 堀田 力 氏(さわやか福祉財団理事長)

記念式典

日時 2006年5月15日(月) 9:00
場所 ラーハウザー記念東北学院礼拝堂(土樋キャンパス)

オープン・リサーチ・センター公開国際シンポジウム

日時 2006年9月12日(火) 時間未定
場所 押川記念ホール(土樋キャンパス)
テーマ 長江とアムール「アジア流域文化論」ことはじめ

東北学院創立120周年記念事業に関するお問合せ先

学校法人東北学院 法人事務局庶務課 TEL.022-264-6464

アヘン戦争から清末までの中国・アジア情報に関する資料

アヘン戦争・南京条約・五港開港によって、中国の鎖国体制は崩れ、多くの西欧人が中国内部に入り、多くの情報が西欧社会に伝えられました。

- ・ブレイクストン『長江の五ヶ月～長江の上流探検と反乱の記録』1862年。
- ・リトホーヘン『中国旅行記』本文5巻、地図帳2巻、1877年。稀覯本。
⇒著名な地理学・地質学者。東アジアの科学研究の基礎となった著名な書物です。
- ・スウィン・ヘディン『南チベット』1917年、ストックホルム初版本。
⇒本文8巻、地図等3巻。シルクロードの探検調査で有名な著者です。
- ・コズロフ『モンゴルとカム』1905、6年、ペテルブルグ初版本。
⇒著者は19世紀後半のロシアを代表する探検家の一人です。本書は数次の探検調査の公式報告とされていますが、完了したかどうかは不明です。大型二冊本の本書は極めて稀少な書物です。

古地図並びに銅版図など

旅行記や探検記には、地図や銅版画が綴じ込まれ、あるいは別巻として添付されているものが多くありますが、ここでは地図帳や図版集のほかは、単品として取り扱われています。

- ・ダンヴィル『中国及びチベット地図帳』全62図、1735年。
⇒皇熙帝の命によってイエズス会士が中国全土の実測を行って作成した「皇輿全覧図」の稿本図に基づく地図集です。西欧社会に初めて伝えられた本格的な中国地図です。
- ・シャトラン『日本図』1719年、アムステルダム。

以上、全3回にわたり簡単にコレクションの内容の一部を紹介しましたが、詳細は展示会や後日作成される予定の本学図書館の貴重書情報によって公開される予定です。

ヨーロッパ人の見た東アジア 東北学院大学図書館特別企画展

- 日時 2006年5月12日(金)～5月18日(木) 10:30～16:00
場所 東北学院大学中央図書館
 - 日時 2006年5月20日(土)～5月24日(水) 10:30～16:00
場所 東北学院大学泉キャンパス図書館
- お問合せ 東北学院大学中央図書館 TEL.022-264-6491

教養学部

地域構想学科の取り組み

よりよき地域生活を構想し実現しうる人材の育成を教育目標とする地域構想学科が、2005年4月に開設されて一年になります。学生たちは、よき地域生活とは何かを深く考えながら、①環境問題に取り組む「人と自然とのかかわり」、②地域活性化や住民活動の問題と格闘する「地域社会を支えるもの」、③地域スポーツや地域福祉を学ぶ「生涯にわたる健やかな生活」の3分野から専門的な知識と技法を学んでいきます。学科の教育の特徴は、第一に、教室内の勉強だけでなく、積極的に大学の外に足を運んで「現場」から学ぶことにあります。第二に、最初は3分野を広く学び、知った後で、自分が深く学ぶ分野を決めることです。第三に、ゼミや卒論では教員一人に学生8、9人の徹底した少人数教育があります。以上の特徴を持つ教育プログラムの最初の一年を、第一期生129名が経験しました。1年次は学科で学ぶことへの導入と動機づけです。1年次「地域構想学基礎実習」では、学内で調査や観察の初歩を体験する一方、積極的にキャンパス外でも授業が実施されました。例えば、里山で築かれてきた循環的な暮らし方を探索する、仙台の歴史的町なみと伝統的地場産業を調べる、定禅寺通りケヤキ並木の環境への影響を調査する、地域で暮らす重度障害者を支える仕組みを調べる、仙台市国分町街づくりのフリーペーパーを制作する等々です。1年目、学生たちはまずは「現場」で学ぶことの「楽しさ」を経験しました。次に2年次「地域構想学発展実習」では、地域の現実を学問的に調査し研究する手法と作法を学び、検討に値する結果を出すことの「厳しさ」「大変さ」の実習を経験することになるでしょう。

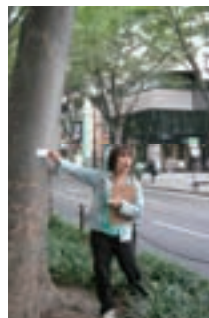
地域構想学科は、これら実習を含むさまざまな教育の場で、学生たちが専門的知識だけでなく、物事を多方面から眺める柔軟な思考法を獲得することをめざしています。というのも、地域の現実にはさまざまな要因が複雑に絡み合っているがゆえに、柔軟で複雑な物の見方ができなければ、問題を解決できないからなのです。



実習風景「七郷郷を歩く」



実習風景「仙台市国分町まちなみウォッチング」



実習風景
「ケヤキ並木の環境への影響調査」



工学研究科

最先端ナノテク研究の本格化!

2006年3月に行われた学位記授与式(卒業式)では、工学研究科から23名の新しい修士(工学)が誕生しました。また、この4月には工学研究科に進学した25名(博士課程後期3年の課程への進学者を含む)の大学院生を新たに迎えました。東北学院大学工学研究科の研究活動は、このような大学院生によって活発になされています。そして、大学院生は日々進歩する新しい科学技術の本質を理解するために、研究を通して自らの知識を深めかつ広げるための勉学を毎日熱心に続けています。

工学研究科においては、今春特筆すべきニュースがありました。それは、工学研究科で行っている研究が、文部科学省の大規模国家助成プロジェクトに選ばれたことです。文部科学省が推進している「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」への申請が採択され、文部科学省より約2億5千万円、本学負担予算として約2億5千万円の、総額5億円の予算による大型研究プロジェクト「特殊環境下における外場誘起によるナノデバイスの機能性発現および新材料探索」がスタートすることになったのです。鹿又武工学研究科長を中心に、嶋敏之助教授など新進気鋭のナノテクノロジーの専門家が、世界最先端の研究に取り組むことになりました。5年後の研究成果と、この研究を通しての大学院生の活躍を楽しみにしています。

学生街を歩く

Quartier Latin T.G.U.

広瀬川を望む光の空間

カフェ モーツァルト アトリエ

café Mozart Atelier



「カフェ モーツァルト アトリエ」は、一番町にある「カフェ モーツァルト」の2号店として、2005年夏、私立現代美術館のあった場所にオープンしました。床、壁、窓枠まで白に統一された空間には、カリモクや天童木工の椅子や籐椅子、アンティークのPapertableやチャーチチェアなどが並んでいます。その素材や表情はバラエティに富んでいるのに、カフェ全体の調和はとれているから不思議です。

この白く個性的な空間では、時折アートイベントが行われます。そのジャンルも、シャンソンライブ、ポエトリー、映画上映会など実に多彩。ここは、「表現」を通して人と人が交わる空間でもあるのです。

このカフェで、ぜひ過ごして欲しいのが、午後から夕方にかけての夕焼けタイムです。あたたかい日なら庭の椅子に腰掛けて、お茶と川風を楽しみつつその時を待ちます。夕焼けアートの鑑賞会の始まりです。夕陽を広瀬川の対岸に見送って、落陽がもたらす軽い冷気に包まれたなら、再び室内に戻り、お気に入りの椅子でもう一杯お茶を飲む…。

オーナーは、ここでの過ごし方を「好きなように過ごしてくれればいい」と言います。ほどよく気ままに過ごせる、居心地の良い空間「カフェ モーツァルト アトリエ」。

さあ、あなたなら、どんな風に過ごしますか?

■ケーキセット 750円～850円

ケーキは全て自家製。材料を厳選したチョコレートケーキ「ショコラデ・モーツァルト」、「マスカルポーネのロールケーキ」が特に人気です。

「café Mozart Atelier」

OPEN 12:00～22:00
 休日 なし / 駐車場 2～3台
 仙台市青葉区米ヶ袋 1-1-13
 TEL:022-266-5333





組込みソフトウェア 開発セミナー実装編 開催

産学連携推進センター

2005年6月に、宮城県と東北学院大学を含む県内の工科系10機関が、地域企業におけるものづくりの基盤技術の高度化と、世界をリードするナノテク・材料等の先端技術の地域定着をめざして、「基盤技術高度化支援に係る相互協力協定」を締結しました。その取り組みの一環として、産学連携推進センターでは、宮城県産業技術総合センター及び地元企業と“宮城組込みソフトウェア人材育成研究会”を立ち上げ、宮城県全体としてのソフトウェア技術の向上、競争力のアップ、さらに、それらを原資とする県内企業のさらなる発展を図るための方策について検討を行いました。一つの成果として、本センター主催、研究会後援で「組込みソフトウェア開発セミナー実装編」を2005年10月27、28日の2日間、土樋キャンパスで開催しました。組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会でおなじみであり、かつ日本の組込みソフトウェアのキーパーソンである東陽テクニカの二上貴夫氏に講師を依頼しました。技術の向上に対する目的意識を明確にしたうえで、最先端の情報を交え、エキスパートならではの組込みソフトウェア開発の実装のノウハウについて、実務経験を踏まえた分かりやすい解説と実習が印象的でした。



コンピュータで制御された鹿おどしの動きを見る二上講師と志子田副センター長



二上講師の講義風景

産学連携推進センター(多賀城キャンパス)

TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

土樋キャンパス窓口

TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030

泉キャンパス窓口

TEL.022-375-1123 FAX.022-375-4040

E-mail srcenter@eng.tohoku-gakuin.ac.jp

URL <http://www.eng.tohoku-gakuin.ac.jp/sangaku>



いまどきの“シューカツ”事情

経済学科4年 鈴木沙也香

「就職活動」、略して「シューカツ」。今年、就職状況は好転し、学生には有利な「売り手市場」と言われています。でも、どこが売り手市場なの?といった感覚です。

“シューカツ”を始めるにあたって、重要なのはインターネットの就職サイトです。情報収集をしながら選考が始まると、「落ちた!」、「通った!」で精神状態はめっちゃくちゃになります。某企業の面接が終わったとき、「これは次にいけるかもしれない。いい面接ができた」と自信満々で、浮かれて家族に電話をしていました。しかし、3日後には残念な連絡が…。恥ずかしいやら、何がいけなかったのかという疑問・反省で頭が真っ白になりました。「シューカツには魔物が住んでいる」、どうなるかなんて全く分からないのです。でも、そんなとき私を支えてくれたのは友人たちでした。「“シューカツ”は自分一人の戦い」とよく言いますが、私はそんな風には思いません。確かに面接は一人です。しかし、その面接にたどり着くまではたくさんの人に支えられています。面接で意気消沈していたときも、友人たちとの語り合いは私を元気にし、明日からの新たな自信を与えてくれました。

私は“シューカツ”を始めて、家族をはじめゼミの先生や先輩たち、就職課の方たちといった、たくさんの人に支えられていることに気づきました。この私を支えてくれるたくさんの人たちに感謝することで、「落ち込んでなどいられない!」、「頑張らなくてはい」と前向きになることができました。

私にとって“シューカツ”とは自分と向き合うことであり、支えてくれる人たちの大切さに気づくことでもありました。“シューカツ”はいまも続いています。自分とこんなにも向き合うことは人生でそうないかもしれない、というくらい過去、現在、未来の自分と向き合っています。自分を知り、自分を支えてくれる人たちがいることを知り、そのことに感謝する、これこそが“シューカツ”で大切なことなのだと思います。そう思って“シューカツ”に取り組んでいます。

2005年度就職活動をかえりみて

日本の経済状況にもやっと明るさがみられるようになった今日この頃、求人数も昨年と比べれば確実に増加の傾向にあります。しかし、本当に学生の就職環境が緩和しているのかと言えば、決してそうではありません。相変わらず大変厳しいのが実情であり、安閑としているわけにはいきません。

2005年度を総括してみると、就職活動の動向は早期化と長期化だったと言えます。大手志向の活動だけではなく採用にいたりません。業界、業種を分析し、自分がそこで果たして生き活きと活躍できるのか、その仕事が本当に好きなのかを見極めることが大切なことです。親も子どもの就職問題には多大なる関心を持っています。お互いに充分話し合い理解しあう機会を設け、子どもの背中を強く押してあげてください。昨年大好評だった「ご父母向けの就職講演会」*を今年度も後援会総会の際に開催いたします。

また、低学年次からのキャリアサポートを考慮し、自分探しの動機付けができる適性検査、自己分析用の適性検査、職業意識を促す適性検査など1～3年生全学生を対象に実施いたします。なお、学年を問わずに、就職部の窓口や資料室などを大いに活用していただきたいと願っております。

※

2006年度 東北学院大学大学後援会総会
「学生の就職を考えるセミナー」

日時 5月20日(土) 15:00～16:00
 場所 泉キャンパス 226番教室
 講師 福沢 恵子氏(キャリアカウンセラー)

土樋キャンパス就職課

TEL.022-264-6481 FAX.022-264-6486

多賀城キャンパス就職係

TEL.022-368-1101 FAX.022-368-1118

泉キャンパス就職係

TEL.022-375-1161 FAX.022-375-1534

東北学院大学 オープンキャンパス2006



■泉キャンパス(文学部・経済学部・法学部・教養学部)

日時:8月5日(土) 9時~16時(受付時間 9時~15時)

主な内容:入試説明会、学科ガイダンス、模擬授業、個別相談コーナー(入試:編入学、資格取得、カリキュラム、留学、就職、奨学金、課外活動)、パイプオルガン演奏、キャンパスツアー

アクセス:当日は次のとおり無料シャトルバスを運行します(約20分間隔)。

なお、通常の路線バスも運行しています。

・地下鉄泉中央駅→泉キャンパス 8時40分~14時40分

・泉キャンパス→地下鉄泉中央駅 11時~16時

※駐車場を準備しています。

※泉キャンパス会場へ貸切バスを利用し、学校ごとの団体見学を希望される場合は、7月28日(金)までに入試課(TEL.022-264-6455)までお電話ください。

■多賀城キャンパス(工学部)

日時: 8月5日(土) 9時~16時(受付時間 9時~15時)

8月6日(日) 9時~15時(受付時間 9時~14時)

10月7日(土) 9時~16時(受付時間 9時~15時)

10月8日(日)10時~15時(受付時間10時~14時)

※10月7・8日の両日は大学祭(工学部祭)開催期間中です。

主な内容:キャンパス施設見学、学科ガイダンス、総合相談コーナー(入試:編入学、資格取得、カリキュラム、留学、就職、奨学金、課外活動)

アクセス:JR仙石線多賀城駅から徒歩約10分、

JR東北本線国府多賀城駅から 徒歩約15分

※駐車場を準備しています。

■上記以外にも『学部単位でのオープンキャンパス』を開催します。

法学部 7月15日(土) 13時30分~16時30分 土樋キャンパス

教養学部 7月15日(土) 11時~16時 泉キャンパス

10月 9日(月) (時間未定) 泉キャンパス

文学部 10月14日(土) 12時30分~17時30分 土樋キャンパス

主な内容:学科ガイダンス、模擬授業、入試説明、個別相談、先輩懇談ほか。

※法学部オープンキャンパスは事前申し込み制です(定員200名)。詳細につきましては教務課法学部担当 TEL.022-264-6452までお問合せください。

問い合わせ先:総務課

TEL.022-264-6412 FAX.022-264-6364

E-mail tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/



ΟΥΡΑΝΟΣは「天」を意味するギリシャ語です。使徒パウロは、時が満ちるとき「天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられる」(エペソの信徒への手紙1章10節)と語っております。この箇所にもοὐρανόςの語が用いられています。

教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成16年4月1日から平成21年3月31日の期間、右記事業の完遂に向けて教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。詳しくは、東北学院法人事務局財務部会計課までお問い合わせください。

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1
TEL.022-264-6467
FAX.022-264-6510

【募金目標額20億円】

- 1.東北学院大学キャンパス整備
- 2.東北学院中学校高等学校校舎建設
- 3.東北学院榴ヶ岡高等学校体育館 および管理棟建設
- 4.東北学院会館(仮称)建設
- 5.東北学院育英奨学金の増額

学校法人 東北学院

東北学院大学

■土樋キャンパス

大学院:文学研究科、経済学研究科、法学研究科
法務研究科
学部:文学部・経済学部・法学部(各3・4年)、
夜間主コース
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6411 FAX.022-264-3030

■多賀城キャンパス

大学院:工学研究科
学部:工学部
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

■泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科
学部:文学部・経済学部・法学部(各1・2年)、
教養学部
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

東北学院中学校・東北学院高等学校

〒983-8565 仙台市宮城野区小鶴字高野123番1
TEL.022-786-1231 FAX.022-786-1460

東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号
TEL.022-372-6611 FAX.022-375-6966

東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号
TEL.022-368-8600 FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.22

広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関谷 登
副委員長	総務部長	高橋 征士
編集長	経済学部教授	原田 善教
委員	宗教学部長	佐々木 哲夫
	文学部教授	楠 義彦
	経済学部助教授	白鳥 圭志
	法学部教授	塩屋 保
	工学部教授	淡野 照義
	教養学部教授	木戸 眞美
	総務部次長	鈴木 孝郎
	総務部総務課長補佐	斎藤 信二
	総務部総務課係長	山本 隆夫
	総務部総務課	藁科 明宏

東北学院大学広報誌「ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)」に関するご意見・ご質問をお待ちしております。

【本誌における個人情報及び掲載記事の取り扱いについて】

本誌に掲載されている個人情報は、本人の了解のもとで本誌に限り公開しているものです。よって、第三者がそれらの個人情報を別の目的で利用することや、本誌の無断転載はお断りしております。

発行日は、5月15日・10月20日・2月20日です。

発行日 平成18(2006)年5月15日
編集 東北学院大学 広報誌編集委員会
発行 東北学院大学
〒980-8511
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
TEL.022-264-6412 FAX.022-264-3030
URL http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/
E-mail tgusomu@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
印刷 株式会社エーピー



古紙配合率100%再生紙を使用しています

この印刷物は環境にやさしい植物性大豆インクを使用しています